

11月だけおクリニック通信113号 ★★

糖尿病専門医 田中先生より ★★★

主任の一言★★★

インフルエンザ予防接種
まだご予約受付中です。

こんにちは。早いものでもう11月です。

寒い日が続いていますが、皆様体調は崩されていませんか？

私は、お風呂で様々な香りのバスソルトを入れて熱い湯舟につかるのが癒しの時間です♡

さて**11月14日**はWHOが定めた、記念すべき**世界糖尿病デー**です！その期間は、世界中あらゆる名所でブルー（国連や空を表す）にライトアップされています。

東京でも都庁や東京タワー等様々な場所がライトアップされています。

今回は、記念日に因んで糖尿病の歴史についてすこしお話ししたいと思います♪

糖尿病の歴史はとても古く、紀元前1550年の古代エジプトまで遡ります。「多量の蜜のように甘い尿を出す病気」と言われ、これが英語名(Diabetes Mellitus)の由来になっています。

長い年月を経て、世界の様々な学者たちが、糖尿病の病態や原因解明に奔走し、20世紀初頭には、すい臓との関連性が明らかになりましたが、治療法に関しては全く進展がなく、1900年初頭の時点で最も有効と信じられ推奨された治療が、飢餓療法という有様でした。

飢えに苦しんでも生きながらえるのはせいぜい数か月程度であり、糖尿病=死であったこの時代に、果敢に立ち向かったのが、フレデリック・バンティングとチャールズ・ベストという2名の医師でした。すい臓に存在する、とある物質が血糖の調整に関連しているという説は既に挙がっていましたが、彼らはそれをイヌで実証しただけでなく、その物質を多大なる労力、血のにじむような苦労を経て抽出・精製し、1922年世界で初めてヒトへの投与を可能としたのです。その後イーライリリー社より、インスリン注射薬が開発され、今日まで多くの糖尿病患者さんの生命を救ってきました。

もちろんインスリン注射が世に出ても、当初は動物由来であったこと、また精製・製造技術が不十分であったことから、重篤なアレルギー反応が出たり、薬効が一定でなかったり、手技が現在と較べものにならない位煩雑だったり、安全且つ広く使用されるまでに長い年月を要しました。

以前、病棟で担当していた糖尿病の患者さんに当時のお話を伺ったことがあります。

当時は注射器と針を毎回煮沸消毒して使用していたこと、針が太くてすごく痛かったこと、血糖の確認は、尿をアルコールランプで反応させて糖の有無を調べるしか手立てがなかったことなど、想像を絶する苦労の連続だったようです。

現在、医療技術の目覚ましい進展に伴い、糖尿病の治療はよりフレキシブルに個々の日常生活と共存したものに変わってきています。先人達の苦悩や努力の上に今日の医療があるのだということに改めて感謝し、日々の診療に励もうと思う所存であります。